

## 生き生きと学習する児童の育成 ～表現する力の向上をめざして～

### I 研究の内容

#### 1 研究の見通し

話す力を確実に身につけさせる指導や場の工夫をすれば、自分を表現する力が向上し、生き生きと学習する児童の育成につながるであろう。

#### 2 研究内容

- 「豊かな表現力（話す）」についての理論研究
- 「話す力」について、児童の実態把握と分析（「言語環境調査」「CRT」）
- 「話す力」を身につけさせる指導を工夫した授業実践
- 「話す」意欲を高める場の工夫や言語環境の整備
- ※「生きる教育」の実践と研修（自他の生命や心の大切さを含めた性教育）

#### 3 研究方法

- 「豊かな表現力（話す）」について学習会を行い、共通理解を図る。
- 児童の実態を調査し、課題を明らかにすると共に、子どもの変容をとらえて、次につなげていく。
- 実践研究の基盤を授業研究におき、授業力を高めていく。また、一人一実践を基本とし、授業実践を通して教師が力量を高めるための具体的な取り組みを志向していく。
- 学校生活のあらゆる場面を通して「話す力」の向上を支えていけるような、環境作りに取り組んでいく。
- ※「生きる教育」について一人一実践を行い、報告会を行う。

#### 4 研究実践

- (1) 「豊かな表現力（話す）」についての学習会
- (2) 「話すこと」「あいさつ・言葉遣い」実態調査の実施（5月・1月の2回）
- (3) 「豊かな表現力（話す）」を育む言語環境の整備
  - ア あいさつ運動の活発化（児童会との連携）
  - イ 『職員室に入るときの約束』作成
  - ウ 『岩手小の声のものさし』作成
- (4) 授業研究
  - ア 1年国語『わたしは、なんでしよう』 廣瀬 明子教諭
  - イ 6年国語『今、わたしは、ぼくは』 鈴木 敏弘教諭
- (5) 授業実践
  - ア 2年国語『音やようすをあらわすことば』 廣瀬 康子教諭
  - イ 3年国語『名前をつけよう』 小野 紀男教諭
  - ウ 4年国語『「伝え合う」ということ』 小河真由美教諭
  - エ 5年国語『「失敗」をめぐる』 那須 美佳教諭

## II 成果と課題

### 1 成果

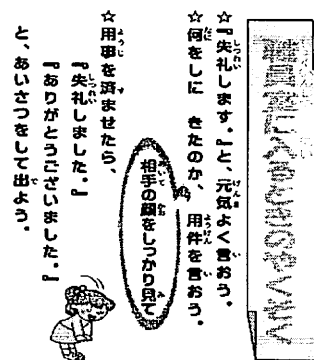
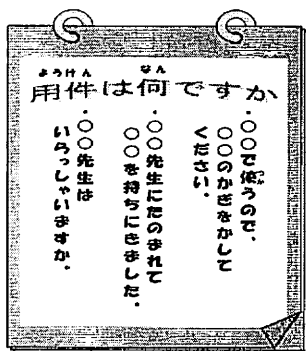
- 「話す力」をつけることは自分を表現する手だての一つである。本校のような小規模校では、表現の手段としてお互いに言葉を交わさなくても通じてしまうところもあるが、世の中で自己表現する際には言葉での表現は重要である。その意味で、全職員が共通理解をし、言語環境を整え表現力をつけていく方向は良かった。
- 人の前で話すことやあいさつ・言葉遣いについて、全校で基本的なことから取り組むことができ、成長が見られた。
- 具体的な手だて（よい話し方のモデルを示す。話すことを書かせておく。『声のものさし』『職員室に入るときの約束』をよりどころにして指導する。等）をし、実態調査により検証できたことが良かった。
- 取り組みの中で意識させることにより、年度始めに比べると自己評価力も高まってきた。

### 2 課題

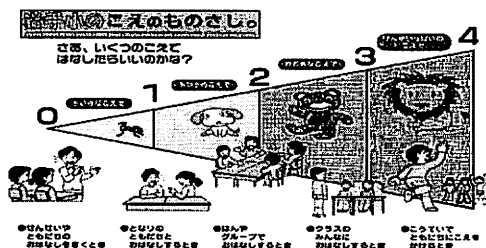
- 実践してきたことを今後他教科にも生かし、普段の授業や活動の中で継続して根気強く指導していく事が大事である。長期的・全校的な取り組みが必要である。
- 力の定着については個人差が大きいので、個別指導も大切にしていきたい。
- 明るく伝える・明るく発表する・明るく積極的に活動するという点が、足りないように思える。どのようにしていったらよいか、課題としていきたい。
- 今年度は「話す」ことに力を入れて取り組んだが、「聴く」こととも切り離しては考えられない。「話す」こと・「聴く」ことと合わせて継続した指導が大切である。

## III 成果物

- 1 国語科学習指導案（授業研究）・略案（授業実践）
- 2 「話すこと」実態調査項目（系統表） 「あいさつ・言葉遣い」実態調査項目
- 3 『職員室に入るときの約束』



### 4 『岩手小の声のものさし』



（研究主任 小河 真由美）